［まとめ］活動内容と今後について

［具体的な支援内容］

- ■ 支援対象者：仮設住宅にお住まいの 7 世帯＝冬物支援物資
- ■ ニーズのあった冬物用品＝64 点
- ■ 灯油券 18L×70 枚（7 世帯 10 回分）の配布

［今回の支援で実施できた点］

具体的・個別のニーズを把握し必要なタイミングで届ける仕組み

□ 個別ヒアリングの内容で支援
→社協の実施したヒアリングに添って支援物資を検討

□ クラウドファンディング（CF）の実施
→公的支援、支援金以外にも CF を実施し支援に必要な予算を確保

□ 暖房器具の購入
→夏の水害で使えなくなってしまった、冬季に必要なファンヒーターなどを購入。

□ 支援金を灯油券に（配達可能）
→高齢の被災者も多い為、灯油の配達を地元商店に依頼可能な灯油券を配布。

地域を知る方とつながり、遠隔地からの継続支援を実施

□ 地域のキーマンが地元の方との窓口になり、住む人のニーズをつなぐ役目に
→ 継続的な支援が可能

zoomを利用し、協力団体と支援内容について情報共有を密にした。

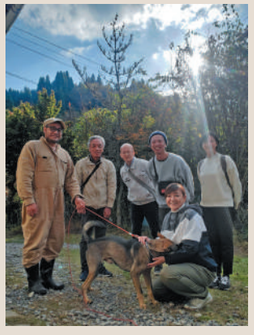
［今後の展開］

自治体や商店街などとの「いざというときに協力できる体制」づくり

［山国支援での例］
遠隔地での支援を継続のために、オンラインでの定期連絡

［当団体の活動例］
地元商店街と協働での避難訓練の実施

県外のNPO団体との連携



［収支報告］

収入の部

費目	決算額
①日本財団支援金収入	500,000
②クラウドファンディング	220,230
収入合計	720,230

支出の部

費目	決算額
旅費交通費	59,766
賃借料	9,900
通信運搬費	4,450
印刷製本費	11,000
消耗品費	16,606
備品費	24,849
支援物資	480,859
謝金	108,000
雑費	4,800
支出合計	720,230

ベビーカーを押す妊婦や車椅子に乗る人の工場になって避難訓練をする参加者＝大分市府内町

「震度6、津波警報」を想定

大分市府内町で「まちなか避難訓練」

【大分】大分市府内町で、南海トラフ地震を想定した「まちなか避難訓練」があった。住民や商店主、従業員ら約人が参加。障害者や高齢者、妊婦といったサポートが必要な人を全に誘導する手順を確認した。

府内町ス、3丁目の商町内会や西四番街商店街振興組合、町内のNPOなどが「地域ぐるみで」が初めて実施した。

参加者は体に重りを巻けたり、視覚の残いゴーグルや車椅子などを使ったりして、障害者や高齢者、妊婦の立場を体験。福祉や防災に携わる専門家の助言を受け、支援や誘導の仕方を学んだ。

訓練は震度6の揺れを観測し、津波警報が出たと想定。四つのルートに分かれ、商店街から約400メートル離れた避難場所のコンバルホールに向かった。落ちやすい高齢者、妊婦といった恐れのある人は、滑りやすいマンホールといった危険箇所もチェックした。

車椅子での避難を体験した大分大4年の上杉菜穂さん(18)は「道路の傾きや段差など怖いと感じる場面が想像以上にあった。人数がそろってもっと不安になりそう。いざというときに生かしたい」と動じた。

同商店街振興組合の勝井俊之副理事長(44)は「自分事として捉え、平常時から想定しておくことが大切。今後も町内会と連携して防災に取り組みたい」と話した。（藤沢亮）

＜事例＞まちなか避難訓練

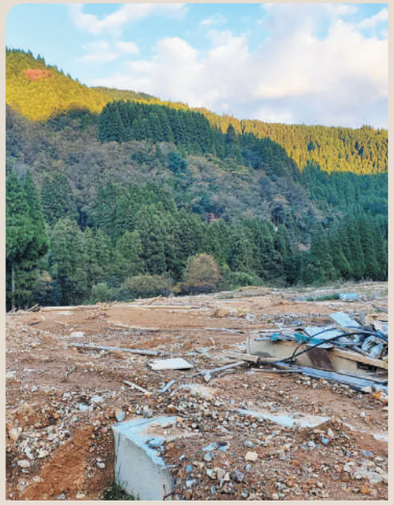
当NPOが実施する「要配慮者を交えた避難訓練」を商店街と共同で実施し、お互いに顔を知ることで「いざというときに協力できる体制」づくり

掲載：2023年9月19日（火）　大分合同新聞9面

特定非営利活動法人
地域ひとネット
HITOMUSUBI

〒870-0021
大分市府内町2丁目2-1 名店ビル406号室

電話 097-547-2424　携帯 080-9092-5534
メール chn@chiikihito-net.com
https://chiikihito-net.com/



令和5年豪雨災害の中津市山国エリア
支援内容 報告書

令和５年豪雨災害の中津市山国エリアの支援にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げます。
令和５年6月下旬から7月にかけて停滞した梅雨前線により山国川流域には非常に強い雨が降り、複数箇所で河川の氾濫が発生し、住宅の全壊、地すべり、がけ崩れなど甚大な災害が発生しました。
今回は全壊、半壊の仮住まいの世帯を対象に生活支援物資を届ける活動などを行いました。毎年のようにどこかで大きな災害が起きていますが、私たちは少しでも支援し合う仕組みづくりとして「離れていてもできる災害支援」を行っていきたいと考えています。
報告書では、活動を行った背景、活動の結果、活動を行うためにいただいたご支援について報告いたします。

期 間　令和5年10月～令和6年1月

対象エリア　被害の大きかった高内地区エリア　9世帯

誰が（支援者）	対象者	支援内容
・中津市社会福祉協議会 ・当法人 ・山国在住の消防団	・全壊、半壊の仮住まいの世帯 （7世帯を対象に生活支援）	・冬物物資の生活支援
・おおいたいとでんわプロジェクト支援協力企業（暮+建築設計/株式会社アシタエ）	・山国高内地区の一次産業従事者	・えのは養殖場の現状把握 ・農業ビニールハウスの現状視察

協 力
毛谷村六助資料館 館長 堯純一/暮＋建築設計 日髙雄介/株式会社アシタエ 赤峰大輝 内藤達也/荒崎紀子
中津商工会議所/中津市しもげ商工会山国支所/九州防災減災対策協議会/近江屋/インテリアフェスタ/蒋口ふとん店
日ノ出電気商会/金丸商店/大分石油株式会社/中央石油有限会社/カスガデザインルーム/パラボラ舎 （敬省略）

特定非営利活動法人
地域ひとネット
HITOMUSUBI

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

[山国支援] 取り組みの流れ

役割分担をしたことで 遠隔地、関係性も さまざまな方が関われる 支援のカタチ

A. 遠隔地からできる支援

B. 現地でできる支援

役割分担をすることで
「支援の多様性を作っていける」
「支援の選択肢」を増やす

災害発生

[平常時・過去の災害時]

2023年7月 / 8月 / 9月 / 10月 / 11月 / 12月

資金調達を準備

冬季の寒さ対策など
長期支援のニーズを把握

現地訪問

- 中津市社会福祉協議会山国支所
- 中津市商工会山国支所
- 中津市役所山国支所
- 高内地区
- 山国消防団

現地訪問時や支援内容の相談など
地域との窓口として
大変お世話になりました。

中津市社会福祉協議会 山国支所 城土さん

支援 遠隔地からできる支援

- 資金調達
- 情報共有会議
- 後方支援の事前準備
- 荷物の仕分け
- 支援物資の購入

支援物資の購入は、中津市、日田市を中心に個人商店で購入した。そのため、電気商店では、荷物を届けた後のフォローも受けてくれることになった。

(チラシ制作：カスガデザインルーム)

寄附者一覧

【まごころ企業様】

キツキハーネス有限会社様
ファインド個別指導塾様
(有)須美商事様
BRIDGE KUMAMOTO様
(株)村上ファーム様
匿名2企業様

「まごころ企業」とは？

おおいた・いとでんわプロジェクトで、協力企業として登録している大分市の個人商店など。

【個人寄付者の皆さま】

田原誠士様
星野義明様
水野様
多田路央様
安東隆行様
中島様
藤井ゆみ様
山田健一郎様
山科様
小野様
渡部里恵様
近田望様
木村京子様
地域ひとネット募金箱
匿名の方、4名

(※順不同　※お名前の記載方法に関しましては、ご本人の意向により掲載しています)

支援者の声

自分の商店の商品を山国の人が使ってくれるのは嬉しい。
被災者の方々のために社会貢献ができることがわかった。

わたしたちの団体の活動

1. おおいたいとでんわプロジェクト

OITA ITO DENWA Project おおいたいとでんわプロジェクト

災害時に届きにくい
小さな声をつなぐ、
要配慮者のための
防災プラットフォーム

[活動内容]

- □ 災害時に困りそうなニーズを事前に聞く、知る
- □ 支援団体にニーズを伝える関係作り

2. おおいたオカワリプロジェクト

2020年7月の天ケ瀬豪雨災害の際に現地NPOから「災害直後は支援物資が届くが、季節が変わるとほとんど物資が来ない」聞き、長期に渡る支援物資を送る活動を開始。
避難所から仮設住宅へとフェーズが変わり、必要物資が変わったため、クラウドファンディングで寄付を集めた。

[具体的な支援]

【対象】みなし仮設世帯56世帯
【内容】水害で流された冬物物資などを届ける

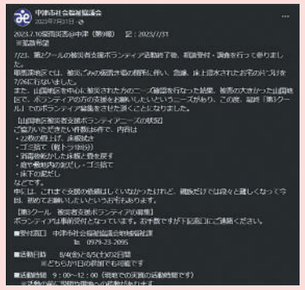
(チラシ制作：カスガデザインルーム)

情報収集開始

- 社会福祉協議会FB
- 自治体(県・市)
- 結び手企業

※結び手企業＝
おおいた・いとでんわPJの協力企業

求める支援内容が
明確な情報発信。



社会福祉協議会の公式facebookでの支援実施の内容が
「いつ」「どこで」「何をするか」が
明確で、遠隔地からも
情報がわかりやすかった、

地域連携＆現地支援

被災者を中心にして、ニーズ調査、見守り、商品購入、配達の役割分担が出来、企業の方も普段の仕事＋@の動きができたこと、またその動きを企業の方が理解してくれ、連携できたことが一番の成果と考える。

山国の方からメッセージをいただきました。
ご支援をいただき元気を頂戴しました。
おかげ様でお正月を穏やかに迎えられています。
灯油は必ず必要なものなので、
大変ありがたい、助かります。(灯油券をお届けしたご家庭から)

現地での情報収集

中津市社会福祉協議会
山国支所が
仮設入居世帯へヒアリング

中津市社会福祉協議会本所と山国支所担当者との情報のやり取りを密に行い、被災者が必要な物資を購入し届けることができた。

事前準備

地域に住むキーパーソンを
通じて現地ニーズを把握
(現地の消防団)

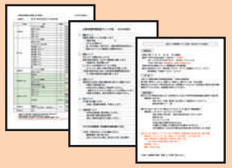
地元消防団との情報共有をしていたことで離れた大分市からでも情報がリアルタイムに掴むことができ、相談内容や経過を社協に報告するなどの情報の流れの仕組みが見えた。

配達

おおいた・いとでんわプロジェクトの協力企業を中心に、
大分～中津～山国と購入物資の輸送に協力を得た。

把握したニーズをもとに、地元商店を中心に支援物資を購入し
物資の配達・灯油券の配布をおこなう (灯油券制作：パラボラ社)

支援体制のルールづくり（法人内と支援企業）



支援に入ってもらう前にホウレンソウの徹底と体調管理票、ルールづくりチェック事項など、支援活動を通じて知ったノウハウを活動に協力してくださる方と共有するチェックシートを作成

視察

支援や被災状況を
定期的に確認するための
現地視察を実施

デジタルツールを使った情報共有に加え、定期的な現地視察により、地域外からの目線で課題や支援の方法を検討することができた